シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの保健A		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの保健A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	『子どもの保健と安全』 学習の手引き		出版社	教育情報出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	発育途中にある乳幼児は、環境の変化に対する適応力が低く、感染症にも罹りやすい。成人とは異なるため、子どもの健康を保持増進するだけでなく、健全な発育を促すことも必要不可欠である。ここでは、子どもの心身の発育・発達とその評価、子どもの病気と予防・手当、保育環境、健康と安全、体調不良やけがと応急処置、個別な配慮、感染症対策ガイドラインについて学習する。
到達目標	・保育士として必要な子どもの保健についての基礎知識を身につける。 ・乳幼児期に罹患する病気（感染症含む）と予防、対応について正しい知識を獲得し理解する。 ・子どもにとっての安全で健康な環境について理解する。
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	子どもの保健B、子どもの体のしくみA・B、子どもの医療A・B、小児医療A・B
備考	この授業は、原則対面授業形式にて実施する。

担当教員	庄子 幸恵	実務経験	○
実務内容	東北大学病院加齢医学研究所附属病院に8年間看護師として勤務 仙台大学体育学部健康福祉学科に教員として19年勤務 東北文化学園大学医療福祉学部看護学科に教員として勤務（現職位　准教授）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもの心身の健康と保健の意義	保健活動、健康の概念、健康指標、現状と課題、地域の保健活動と児童虐待の防止について
2	子どもの保健の諸統計　2-1 （※数字は手引きの講数に合わせています）	人口統計、出生率等について
3	子どもの保健の諸統計　2-2	死亡率、事故・けが・病気の予防について
4	子どもの心身の発達とその評価	発達の順序と連続性、発達の臨界期と基本的方向性、精神発達、健康状態の把握について
5	子どもの生理機能の発達　4-1	生体の成り立ち、ホメオスタシス、呼吸について

6	子どもの生理機能の発達　4-2	乳幼児突然死症候群、子どもの体温について
7	子どもの生理機能の発達　5-1	血液・循環・脈拍数について
8	子どもの生理機能の発達　5-2	消化吸収、排泄、睡眠とホルモンについて
9	子どもの脳神経系の発達	神経系のしくみ、神経細胞、発達と反射について
10	子どもの運動機能の発達とその評価	運動機能の発達、方向性、評価について
11	子どもの感覚の発達とその評価	視覚、聴覚、味覚・嗅覚・触覚の発達について
12	子どもの歯の発達とケア	乳歯と永久歯の発達、歯の健康状態、歯の健康管理について
13	修得確認	第1章から8章までの修得確認
14	子どもの病気と予防・手当①	病気の特徴、先天異常について 呼吸器の病気について（※循環器は11講の内容のため、後期に入れています）
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

※以下、「シラバス」枠内が公表対象となります。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの保健B		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの保健B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	『子どもの保健と安全』 学習の手引き		出版社	教育情報出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	発育途中にある乳幼児は、環境の変化に対する適応力が低く、感染症にも罹りやすい。成人とは異なるため、子どもの健康を保持増進するだけでなく、健全な発育を促すことも必要不可欠である。ここでは、子どもの心身の発育・発達とその評価、子どもの病気と予防・手当、保育環境、健康と安全、体調不良やけがと応急処置、個別な配慮、感染症対策ガイドラインについて学習する。
到達目標	・保育士として必要な子どもの保健についての基礎知識を身につける。 ・乳幼児期に罹患する病気（感染症含む）と予防、対応について正しい知識を獲得し理解する。 ・子どもにとっての安全で健康な環境について理解する。
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	子どもの保健A/子どもの体のしくみA・B/子どもの医療A・B/小児医療A・B
備考	この授業は、原則対面授業形式にて実施する。

担当教員	庄子 幸恵	実務経験	○
実務内容	東北大学病院加齢医学研究所附属病院に8年間看護師として勤務 仙台大学体育学部健康福祉学科に教員として19年勤務 東北文化学園大学医療福祉学部看護学科に教員として勤務（現職位　准教授）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもの病気と予防・手当②	循環器、血液、消化器の病気について
2	子どもの病気と予防・手当③　12-1	悪性腫瘍、精神神経系の病気について
3	子どもの病気と予防・手当③　12-2	泌尿器・生殖器について(※皮膚は13講の内容のため、次に入れています)
4	子どもの病気と予防・手当④	皮膚の病気、整形外科、口腔の病気について
5	子どもの病気と予防・手当⑤ 14-1	眼、耳・鼻の病気について

6	子どもの病気と予防・手当⑤ 14-2	内分泌の病気、予防接種について
7	個別な配慮を要する子どもへの対応　15-1	保健的対応、3歳未満児への対応について
8	個別な配慮を要する子どもへの対応　15-2	アレルギー性疾患、慢性疾患、障害のある子ども・医療的ケア児への対応について
9	修得確認	これまでの修得確認
10	保健的観点をふまえた保育環境と援助・保育における健康と安全の管理	健康と保育環境、個別的対応、集団全体について
11	子どもの体調不良・けがと応急手当	体調不良・けがと応急処置、救急処置と救急蘇生法について
12	子どもの保健と感染症対策ガイドライン	「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく予防、対処について
13	子どもの保健指導	保健と行政、集団と保健行事、保健指導について
14	子どもの健康と安全管理の実施体制	職員間の連携・協働と組織的取組、保健活動の計画と評価、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭・専門機関・地域の関係機関等との連携について
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援の心理学A		
必修選択	選択	（学則表記）	子ども家庭支援の心理学A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学 学習の手引き		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	発達における初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等を整理し、そうした発達を支える家族・家庭の機能を理解する。また子どもの精神保健についても基礎知識を習得する。これらの学習をとおして、現代の子育て状況と課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学ぶ。
到達目標	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解し説明が出来る。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、保育実習の際に支援する気持ちを持ち対応することが出来る。
評価基準	・テスト：50％・授業態度：30％・学習の手引き(理解度テスト・レポートテスト)：20％ ・科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある ・成績評価が2以上
関連資格	保育士資格
関連科目	保育の心理学ⅠA、保育の心理学ⅠB、子ども家庭支援の心理学B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	青木 紀子	実務経験	○
実務内容	私立幼稚園（12年間）、社会福祉事務所相談員（2年間）、児童相談所相談員（5年間）、 仙台市公立学校相談員（3年間）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	乳幼児期の発達	新生児から幼児期までの発達特徴とかかわりについて
3	児童期の発達	児童期の発達特徴と教育の諸問題について
4	青年期の発達	青年期の発達特徴と乳幼児期との関係について
5	成人期・高齢期の発達	成人期、高齢期の発達や心理的課題について
6	家族・家庭の意義と機能	家族や家庭の意義と機能について

7	修得確認	これまでの修得確認
8	親子関係・家族関係の理解	家族を理解し支援するための理論や技法について
9	子育てを取り巻く社会的状況	現代における結婚、出産、子育てに関する状況について
10	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースの観点から保護者理解、保護者支援について
11	多様な家族の現状	多様な現代の家族の現状を概観、その支援について
12	配慮を要する家庭①	保護者の疾患や障害など、特別なニーズがある家庭への配慮について
13	修得確認	これまでの修得確認
14	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
15	総まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援の心理学B		
必修選択	選択	（学則表記）	子ども家庭支援の心理学B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学 学習の手引き		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	発達における初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等を整理し、そうした発達を支える家族・家庭の機能を理解する。また子どもの精神保健についても基礎知識を習得する。これらの学習をとおして、現代の子育て状況と課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学ぶ。
到達目標	①子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し援助が出来る。 ②子どもの精神保健とその課題について理解し保育実習で子どもの姿を観察し発達を捉えられる。
評価基準	テスト：50%・授業態度：30%・学習の手引き(理解度テスト・レポートテスト)：20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある ・成績評価が2以上
関連資格	保育士資格
関連科目	保育の心理学ⅠA、保育の心理学ⅠB、子ども家庭支援の心理学A
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	青木 紀子	実務経験	○
実務内容	私立幼稚園（12年間）、社会福祉事務所相談員（2年間）、児童相談所相談員（5年間）、 仙台市公立学校相談員（3年間）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

各回の展開

回数	単元	内容
1	配慮を要する家庭	虐待が子どもに与える心理的影響と支援について
2	子どものストレス	子どものストレスによる症状とその対応について
3	睡眠・食事・排泄にかかわる症状	睡眠・食事・排泄に関する症状とその対応について
4	その他の症状	チック、吃音、選択性緘黙について
5	発達障害	発達障害の症状と対応について
6	修得確認	学習の手引きの理解度テスト・レポートテストの内容を中心に修得確認

7	まとめ・補足	修得確認の内容・結果を踏まえ、まとめ・補足を行う
8	全体総まとめ・確認テスト	本科目の実施内容の習得状況の確認を行う
9	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
10	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
11	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
12	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
13	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
14	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
15	総まとめ	1年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会的養護ⅠA		
必修選択	選択	（学則表記）	社会的養護ⅠA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ 学習の手引き		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、現在の施設養護や里親養育について学び、様々な立場で生活する子どもを理解する。子どもの権利擁護、自立支援について、生活場面における具体的援助のあり方について考える。「子どもの虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」に関する知識を身に付け、生活の中での支援を学ぶ。家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等についても理解する。授業では、様々な困難を抱えた子どもを理解することを重視し、施設保育士に限らず保育所等の通所施設の保育士としても必要な知識の習得をする。
到達目標	1. 現代の養護問題の歴史的背景及び体系を説明できる。 2. 社会的養護の体系、児童福祉施設や里親などの役割について説明できる。 3. 社会的養護の基盤となる原理を児童福祉との関連において説明できる。 4. 施設養護における「子どもの権利擁護」及び「自立支援」の考え方を述べることができる。
評価基準	修得確認：50%　授業態度：30%　学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	子ども家庭福祉A・B、社会福祉Ａ・B、子ども家庭支援論
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	佐藤 陸	実務経験	○
実務内容	病院の病棟にて入院患者の介護、介護施設にて介護業務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	現代社会における 社会的養護の意義と変遷	第1講Ⅰ～Ⅲ 社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について
2	子どもの人権擁護と社会的養護	第2講Ⅰ～Ⅲ 子どもの権利を社会的養護の場、施設保育士としての論理と責務について
3	家庭の機能と社会的養護	第3講Ⅰ～Ⅲ 子どもが生活する場における家庭機能について
4	社会的養護の基本原則Ⅰ： 養育―日常生活支援―	第4講Ⅰ～Ⅱ 子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際、施設規模による養育への影響について

5 6	社会的養護の基本原則Ⅰ： 養育―日常生活支援―	第4講Ⅰ～Ⅱ 子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際、施設規模による養育への影響について
7	社会的養護の基本原則Ⅱ：保護 ―自己実現に向けた支援―	第5講Ⅰ～Ⅱ 家庭から保護し養育する際の支援の視点と親子関係調整、地域との関係調整について
8	社会的養護の基本原則Ⅲ： 子どもであることへの回復 ―治療的支援―	第6講Ⅰ～Ⅱ 被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援の視点、施設内の他職種とのチームワークについて
9	社会的養護の基本原則Ⅳ： 生活文化と生活力の修得 ―自立支援―	第7講Ⅰ～Ⅲ 日常生活を通して生活文化と生活力を修得する支援の実際について
10 11	社会的養護の基本原理Ⅴ： 生命倫理観の醸成 ―生と性の倫理―	第8講Ⅰ～Ⅱ 生と性の倫理、社会的養護における捉え方、支援について
12	社会的養護の制度と実施体系	第9講Ⅰ～Ⅲ 制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について
13	施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ ―乳児院と児童養護施設―	第10講Ⅰ～Ⅳ 乳児院と児童養護施設の事例、社会的養護の実践について
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会的養護ＩＢ		
必修選択	選択	（学則表記）	社会的養護ＩＢ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ 学習の手引き		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、現在の施設養護や里親養育について学び、様々な立場で生活する子どもを理解する。子どもの権利擁護、自立支援について、生活場面における具体的援助のあり方について考える。「子どもの虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」に関する知識を身に付け、生活の中での支援を学ぶ。家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等についても理解する。授業では、様々な困難を抱えた子どもを理解することを重視し、施設保育士に限らず保育所等の通所施設の保育士としても必要な知識の習得をする。
到達目標	1. 現代の養護問題の歴史的背景及び体系を説明できる。 2. 社会的養護の体系、児童福祉施設や里親などの役割について説明できる。 3. 社会的養護の基盤となる原理を児童福祉との関連において説明できる。 4. 施設養護における「子どもの権利擁護」及び「自立支援」の考え方を述べることができる。
評価基準	修得確認：50%　授業態度：30%　学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	子ども家庭福祉A・B、社会福祉Ａ・B、子ども家庭支援論、社会的養護ＩＡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	佐藤 陸	実務経験	○
実務内容	病院の病棟にて入院患者の介護、介護施設にて介護業務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ ―障害児の入所施設―	第11講Ⅰ～Ⅲ 第3講Ⅲ障害児の入所施設の事例、社会的養護の実践について
2		
3	施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ 児童自立支援施設と児童心理治療施設	第12講Ⅰ～Ⅲ 社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例、社会的養護の実践について
4		
5	家庭養護の特徴・大正・形態 ―里親・ファミリーホーム―	第13講Ⅰ～Ⅴ 里親とファミリーホーム、制度と養育の実際について
6	社会的養護の現状と課題①	第14講Ⅰ～Ⅲ 施設の運営管理、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて

7	社会的養護の現状と課題②	第15講Ⅳ～Ⅴ 被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められていることについて
8	修得確認	テストの実施
9	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
10		現代の養護問題の歴史的背景及び体系について
11		
12		社会的養護の体系、児童福祉施設や里親などの役割について
13		
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育カリキュラム論A		
必修選択	必修	（学則表記）	保育カリキュラム論A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①保育の計画と評価-豊富な例で１からかわる(第３版) ②令和5年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ③学習の手引き	出版社	①萌文書林 ②チャイルド本社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの望ましい育ちを目指して、育てたい姿を描くことや、子どもの実態に即した指導計画の立て方や環境構成に関して学び、実習の指導計画案を作成できるようにする。
到達目標	①保育における計画の意義を理解し、その編成の基本的な考え方を理解することができる。 ②教育課程・保育の全体的な計画（保育課程）および長期の指導計画をもとに子どもの実態に即した短期の指導計画を作成することがきる。 ③PDCAによる保育の質の向上の考え方を学び、保育を評価・省察することができる。
評価基準	修得確認：50%　授業態度：30%　学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭免許
関連科目	保育カリキュラム論B、乳児保育A・B、保育者論A・B、保育原理A・B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	庄司 真輝	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として10年以上勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育における計画と評価の意義	第1章、教科書② 要領・指針総則について
2	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムと何か、保育におけるカリキュラムの特性について
3	教育課程・保育課程の歴史と変遷	幼稚園教育要領・保育児保育指針の変遷について
4		
5	社会の変化と保育に求められるもの	「育みたい資質・能力」「幼児教育の終わりまでに育ってほしい10の姿」について
6	幼稚園における計画	幼稚園における計画の特徴について

7	保育所・認定こども園における 教育・保育の計画	幼稚園の教育課程の編成の要件や実際の事例について
8	教育課程編成の実際	幼稚園の教育課程の編成の要件や実際の事例について
9	子ども理解に基づく計画と評価	子どもの実態の捉え方、計画への生かし方について
10	指導計画におけるねらいと内容	指導計画におけるねらいと内容の意味や考え方について
11	指導計画の作成と展開（1） 指導計画の基本	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について
12	指導計画の作成と展開（2） 3歳未満児	0歳児の指導計画について、1歳児の指導計画について
13		2歳児の指導計画について
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育カリキュラム論B		
必修選択	必修	（学則表記）	保育カリキュラム論B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①保育の計画と評価-豊富な例で１からかわる(第３版) ②令和5年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ③学習の手引き	出版社	①萌文書林 ②チャイルド本社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの望ましい育ちを目指して、育てたい姿を描くことや、子どもの実態に即した指導計画の立て方や環境構成に関して学び、実習の指導計画案を作成できるようにする。
到達目標	①保育における計画の意義を理解し、その編成の基本的な考え方を理解することができる。 ②教育課程・保育の全体的な計画（保育課程）および長期の指導計画をもとに子どもの実態に即した短期の指導計画を作成することがきる。 ③PDCAによる保育の質の向上の考え方を学び、保育を評価・省察することができる。
評価基準	修得確認：50%　授業態度：30%　学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭免許
関連科目	保育カリキュラム論A、乳児保育A・B、保育者論A・B、保育原理A・B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	庄司 真輝	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として10年以上勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	指導計画の作成と展開（3） 3歳以上児	3歳児の保育と指導計画について
2	指導計画の作成と展開（3） 3歳以上児	4歳児の保育と指導計画について
3	指導計画の作成と展開（3） 3歳以上児	5歳児の保育と指導計画について
4	指導計画案の作成と展開（4） その他の計画	行事の計画、食育計画、保健計画、安全計画等について
5	指導計画案の作成と展開（4） その他の計画	行事の計画、食育計画、保健計画、安全計画等について
6	保育の省察および記録	省察の記録の意義、帳票や日誌の内容について

7	保育の評価と改善 PCDAサイクルの考え方	保育者の自己評価と園の自己評価、カリキュラム・マネジメントについて
8	まとめ	これまでの振り返り
9	修得確認	テストの実施
10	総まとめ	【グループワーク】 あげられた課題を基に計画・評価を行い、保育の質の向上について実践
11		
12		
13		
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育の方法と技術A		
必修選択	選択	(学則表記)	教育の方法と技術A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	『実践につながる 新しい幼児教育の方法と技術』 大浦賢治・野津直樹編著　／　学習の手引き		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児教育の変遷、幼児教育のあり方や支援の仕方を学び、その意義を理解する。
到達目標	① 保育と幼児教育に関する基本事項を理解し、実践できる。 ② 各種情報メディアの活用法について説明できる。 ③ これからの社会に対応できるような保育と幼児教育の在り方について考える事ができる。
評価基準	修得確認：50%　授業態度：30%　学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	幼稚園教諭免許
関連科目	教育の方法と技術Ｂ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	齋藤 寿子	実務経験	○
実務内容	音楽教室・保育所・プレ幼稚園にて音楽講師として指導		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新しい時代における幼児教育の必要性	授業の流れ、到達目標について 新しい時代における幼児教育の必要性について
2	新しい時代における幼児教育の必要性	新しい時代における幼児教育の必要性について
3	環境指導法①	環境を通して行う保育の意味について
4	環境指導法②	環境を通して行う保育の意味について
5	造形表現①	幼児の造形表現の意義について
6	造形表現②	幼児の造形表現の意義について
7	幼児教育における身体表現①	幼児教育における身体表現の意義と保育者の援助について
8	幼児教育における身体表現②	幼児教育における身体表現の意義と保育者の援助について

9	新しい時代に生きる子どもたちの音楽①	新しい時代を生きる子どもたちの音楽について
10	新しい時代に生きる子どもたちの音楽②	新しい時代を生きる子どもたちの音楽について
11	幼児期の生活と言葉の発達①	言葉の発達における幼児期の生活の影響について
12	幼児期の生活と言葉の発達②	言葉の発達における幼児期の生活の影響について
13	幼児の算数的活動①	幼児の算数的活動の在り方について
14	期末テスト	テストを実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育の方法と技術B		
必修選択	選択	(学則表記)	教育の方法と技術B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	『実践につながる 新しい幼児教育の方法と技術』 大浦賢治・野津直樹編著　／　学習の手引き		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児教育の変遷、幼児教育のあり方や支援の仕方を学び、その意義を習得する。
到達目標	① 保育と幼児教育に関する基本事項を理解し、実践できる。 ② 各種情報メディアの活用法について説明できる。 ③ これからの社会に対応できるような保育と幼児教育の在り方について考える事ができる。
評価基準	修得確認：50%　授業態度：30%　学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	幼稚園教諭免許
関連科目	教育の方法と技術A
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	齋藤 寿子	実務経験	○
実務内容	音楽教室・保育所・プレ幼稚園にて音楽講師として指導		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	幼児期における科学教育①	幼児期における科学教育のあり方について
2	幼児期における科学教育②	幼児期における科学教育のあり方について
3	総合学習	小学校の総合学習の基本的な考え方、幼児教育について
4	保育とICT①	ICTの特性について
5	保育とICT②	ICTの特性について
6	外国にルーツを持つ子ども	外国にルーツを持つ子どもへの支援の仕方について
7	障がいのある子どもたちの教育①	障害のある子もない子も共に育ちあう環境作りについて

8	障がいのある子どもたちの教育②	障害のある子もない子も共に育ちあう環境作りについて
9	虐待経験の影響と求められる支援①	児童虐待についての現状と影響、具体的な支援技術について
10	虐待経験の影響と求められる支援②	児童虐待についての現状と影響、具体的な支援技術について
11	修得確認	修得確認の試験実施
12	保育計画の立て方と実践①	保育計画の立て方と実践での活用のあり方について
13	保育計画の立て方と実践②	保育計画の立て方と実践での活用のあり方について
14	期末テスト	テストを実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの食と栄養ＩA		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの食と栄養ＩA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	子どもの食と栄養 学習の手引き		出版社	中山書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	・食生活の意義、栄養の基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本について、基礎から実践まで身に付ける。
到達目標	1．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身に着け、実践することができる。 2．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、子どもの心身の発達と食生活の関連について理解し、説明ができる。 3．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と保育者としての関わり方を知り、適切な提案をしたり実施することができる。 4．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学び、個々にあった配慮、計画を立てることができる。
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	子どもの食と栄養ＩB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	山田 綾香	実務経験	○
実務内容	離乳食教室、食額アドバイザー資格講座		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、達成目標について
2	子どもの健康と食生活①	朝食欠食の問題と対応について・偏食の弊害と対応について 噛まない子の問題と対応について・孤食の弊害と対応について
3	食に関する基礎知識①	栄養の基礎知識について・たんぱく質の代謝と栄養学的意義について 糖質の代謝と栄養学的意義について・脂質の代謝と栄養学的意義について
4	食に関する基礎知識②	ビタミンの代謝と栄養学的意義について・ミネラルの代謝と栄養学的意義について 食物繊維と水分について
5	子どもの健康と食生活② 食に関する基礎知識③	乳幼児の食生活の現状について 乳幼児の栄養アセスメントについて
6	子どもの健康と食生活② 食に関する基礎知識③	日本人の食事摂取基準の意義と活用について 妊婦・授乳負の食事摂取基準について
7	子どもの発育・発達と栄養・食生活①	授乳・離乳の支援ガイドについて 乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供について

8	子どもの発育・発達と栄養・食生活①	乳幼児の味覚機能の発達と食事提供について 乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供について
9	子どもの発育・発達と栄養・食生活②	乳幼児の食事摂取基準について 乳児期栄養　a．乳汁栄養について
10	子どもの発育・発達と栄養・食生活③	乳幼児の食事摂取基準について
11	子どもの発育・発達と栄養・食生活③	乳児期栄養について 離乳食期栄養について
12	子どもの発育・発達と栄養・食生活④	幼児期栄養について
13	子どもの発育・発達と栄養・食生活⑤ 食育の基本と実践	学童・思春期の食事摂取基準について 食育の基本と実践
14	期末テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの食と栄養ＩB		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの食と栄養ＩB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①子どもの食と栄養 ②学習の手引き		出版社	①中山書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	・食生活の意義、栄養の基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本について、基礎から実践を身に付ける。
到達目標	１．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身に着け、実践することができる。 ２．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、子どもの心身の発達と食生活の関連について理解し、説明ができるようになる。 ３．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と保育者としての関わり方を知り、適切な提案をしたり実施することができる。 ４．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学び、個々にあった配慮、計画を立てることができる。
評価基準	修得確認：50%・授業態度：30%・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	子どもの食と栄養ＩA
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	山田 綾香	実務経験	○
実務内容	離乳食教室、食額アドバイザー資格講座		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、達成目標について
2	食育の基本と実践	食育の基本と実践について（第４章） 第４章　食育の基本と実践
3	修得確認	前期実施内容の修得確認について
4	児童福祉施設や家庭における食と栄養	児童福祉施設や家庭における食と栄養について（第５章） 第５章　児童福祉施設や家庭における食と栄養について
5	食の安全①	食の安全について（第６章） 第６章　食の安全について
6	食の安全②	食の安全について（第６章） 第６章　食の安全について
7	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	特別な配慮を要するこどもの栄養について（第７章　１～２、１０） １．食物アレルギについてー　２．鉄欠乏性貧血について　１０．障がい児について

8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	特別な配慮を必要とする子どもへの対処方法について（第７章　４～７） ４．発熱について　５．体調不良について　６．急性胃腸炎について　７．便秘について
9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③	特別な配慮を必要とする子どもへの理解と対応方法について（第７章　３、８～９） ３．糖尿病について　８．肥満について　９．やせについて
10	修得確認	今までの学習講の振り返りについて
11	修得確認	修得確認について
12	修得確認	修得確認について
13	総まとめ	1年間のまとめ
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	健康		
必修選択	選択	（学則表記）	健康		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	『健やかな育ちを支える　領域「健康」』 学習の手引き（健康）		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達などの事項について、知識や情報、事例等を通して理解を深めることにより、専門的な知識を身に付ける。
到達目標	①幼稚園教育要領等における領域「健康」のねらい及び内容について理解し、保育の場における指導の基本について説明できる。 ②基本的生活習慣とその獲得、子どもの安全について知識を得る。 ③子どもの発育・発達を促す運動遊びについて理解することができる。
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20%・修得確認：50%・授業態度：30% 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある ・成績評価が２以上
関連資格	保育士資格、幼稚園教諭免許
関連科目	健康・健康スポーツ/健康指導法Ａ・Ｂ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	市山 佳樹	実務経験	○
実務内容	中学高校でのトレーニング指導10年及びトレーニングジム、接骨院での実務経験5年あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

各回の展開

回数	単元	内容
1	幼児教育と健康	健康とは 領域「健康」のねらいと内容について 健康指導の基本について
2	発育・発達	発育・発達とは 形態的発育・身体について・形態的発育評価の意義とその方法について 機能的発育・発育評価・発達評価について
3	運動	幼児の運動について・運動遊びの指導について 成長と運動について・指導の実際について
4	生活習慣	生活習慣とは・園生活における指導について 生活習慣獲得のための課題について
5	食育	食育の基本と食生活の現状と課題について 食育を推進するための考え方について・食物アレルギーについて

6	幼児の保健	保育現場における健康管理について・応急処置について 発達障害について
7	保育における安全管理	安全管理と事故の動向について 安全教育について
8	現代的課題	保育におけるITCについて・異文化理解、多文化共生と健康について 領域「健康」の指導にあたって・園行事について・保育者の健康について
9	第1～4回追記事項の確認	第1回目～の不足点や追記事項について
10	第5～8回追記事項の確認	第5回目～の不足点や追記事項について
11	第１～３回目の内容まとめ	第１～３回目の内容まとめ
12	第４～６回目の内容まとめ	第４～６回目の内容まとめ
13	第７～８回目の内容まとめ	第７～８回目の内容まとめ
14	修得確認	修得確認
15	修得試験振り返り	修得試験振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	健康・健康スポーツ		
必修選択	必修	（学則表記）	健康・健康スポーツ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	「これからの健康とスポーツの科学」第4版 安部孝・琉子友男　著		出版社	講談社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツ科学やメディカルの側面を学びつつも健康に重点を置き、その中で、からだ、運動・スポーツがそれぞれ健康にどのように関連しているか知る。 健康生活を営むために運動・スポーツを実施する際の留意点や年齢に応じた内容などを総合的に学ぶ。
到達目標	①健康と運動の関連を理解することができる。 ②運動をからだの関連を理解することができる。 ③健康に関する社会環境を理解することができる。
評価基準	修得確認：50％・授業態度：30％・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある ・成績評価が２以上
関連資格	保育士資格、幼稚園教諭免許
関連科目	健康/健康指導法Ａ・Ｂ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	市山 佳樹	実務経験	○
実務内容	中学高校でのトレーニング指導10年及びトレーニングジム、接骨院での実務経験5年あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

各回の展開

回数	単元	内容
1	ライフスタイルと健康	健康を増進するためのライフスタイルについて
2	生活習慣病	生活習慣病や三大死因などの原因や特徴、基礎的知識の獲得。それらと運動との関連について
3	肥満	肥満の原因となる体脂肪の役割や肥満の測定方法など学び、改善策として代謝や運動、食事との関連について
4	骨と運動	骨の役割と構造を理解し、骨の強化や骨の発達に応じた運動について
5	加齢	サルコペニアが引き起こす身体問題や運動の重要性について
6	子どもの体力と運動	現在の子どもを取り巻くスポーツ・運動の環境について

7	色々な環境下で安全に運動を行う	色々な環境下で安全に運動を行う際の留意点、パフォーマンスとの関連について
8	ストレスと運動	運動がストレスをはじめ、心や脳に与える影響、効果や働きがけについて
9	科目まとめ	振り返り
10	修得確認	修得確認テスト
11	修得試験振り返り	修得試験振り返り
12	第１～３回目の内容まとめ	第１～３回目の内容まとめ
13	第４～６回目の内容まとめ	第４～６回目の内容まとめ
14	第７～８回目の内容まとめ	第７～８回目の内容まとめ
15	全体振り返り、まとめ	全体振り返り、まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育相談		
必修選択	選択	（学則表記）	教育相談		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	「スギ先生と学ぶ教育相談のきほん」杉崎雅子著 学習の手引き		出版社	萌文書林　第２版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	教育相談は、子どもが集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。
到達目標	①教育相談の意義と理論を説明することができる。 ②教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解し、実践することができる。 ③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を説明することができる。
評価基準	修得確認：５０％・授業態度：３０％・学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：２０％ 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	幼稚園教諭免許
関連科目	教育原理/教育制度論
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	平田 千早子
実務経験	○
実務内容	小学校の学級担任や教育委員会の相談機関、心理判定員として実務経験あり。 保育士・教育カウンセラー等、資格取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教育相談とは	教育相談の意義について（第1章）
2	子ども理解①	子どもの行動を理解する方法について（第２章）
3	子ども理解②	子どもの行動を理解する方法について（第２章）
4	保護者への支援①	保護者理解と支援の視点について（第３章）
5	保護者への支援②	保護者理解と支援の視点について（第３章）
6	カウンセリングマインド①	カウンセリングマインドについて（第４章）

7	カウンセリングマインド②	カウンセリングマインドについて（第４章）
8	カウンセリング技法①	カウンセリング技法について（第５章）
9	カウンセリング技法②	カウンセリング技法について（第６章）
10	教育相談体制	園内の教育相談体制について（第８章）
11	外部機関との連携	外部相談機関等との連携について（第９章）
12	保育者のメンタルヘルス	保育者のメンタルヘルスについて（第10章）
13	修得確認	教育相談の意義・重要性・基礎的知識・相談の進め方等、本科目の修得状況の確認
14	単元ごとの総まとめ	単元ごとの内容の復習
15	全体の総まとめ	教育相談の重要性についてのまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの製作		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの製作		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもを惹きつける保育教材を作成する力、魅力的な造形活動を組み立てる力を身につける。 保育者として必要な自身の造形能力や感性を磨く。
到達目標	幼児期の発達段階(子どもたちの年齢や成長の様子)に応じた活動内容や指導方法が理解できる。 幼児期の発達段階に応じた指導計画を立てることができる。 様々な素材、道具、造形技法を使って、多様な保育教材が作成できるようになる。 様々なものの美しさを感じ取り、その機能等を認識できるようになる。
評価基準	提出物(作品、レポート)・発表：70%　授業参加状況(積極性、協調性、授業準備、片付けなど)：30%
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	子どもの造形表現A、子どもの造形表現B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	松村 弘美	実務経験	○
実務内容	保育士として現場経験あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	絵の具を使った描画の実践①	絵の具の多様な使い方の確認「描画実践」
3	絵の具を使った描画の実践②	絵の具の多様な使い方の確認「手形・足形とり」
4	絵の具を使った描画の実践③	絵の具の多様な使い方の確認「スポンジ画」
5	画用紙を使って①	画用紙を使った保育教材の作成
6	画用紙を使って②	画用紙を使った保育教材の作成
7	画用紙を使って③	画用紙を使った保育教材の作成、発表
8	版画	版画技法を使った制作の実践

9	様々な素材を使った制作①	金属系の素材を使った保育教材の作成
10	様々な素材を使った制作②	紙の生活素材(紙皿や紙コップ)を使った保育教材の作成
11	様々な素材を使った制作③	ペンと紙を使った描画作品の作成
12	様々な素材を使った制作④	彩液、墨、絵の具などを使ったマーブリング作品の作成
13	様々な素材を使った制作⑤	紙や他素材を使ったコラージュ作品の作成
14	様々な素材を使った制作⑥	ビニールやプラスチック素材を使った保育教材の作成
15	総まとめ	これまでの制作のまとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	障害児保育A		
必修選択	選択	（学則表記）	障害児保育A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	障害児保育ワークブック		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場における特別な支援の必要性と支援の方法を理解する
到達目標	障がい児を含め特別支援の考え方を保育現場で生かす方法を具体的に述べることができる 保育者として心得ておくべき支援方法について述べることができる
評価基準	修得確認（テスト）、ワークシート：60％　授業態度：40％
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格、幼稚園教諭免許
関連科目	特別支援教育・保育概論A・B、障害児保育B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	平田 千早子	実務経験	○
実務内容	小学校の学級担任や教育委員会の相談機関、心理判定員として実務経験あり。 保育士・教育カウンセラー等、資格取得		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	なぜ特別な支援が必要なのか	障がい児から特別な支援への背景について
3	なぜ特別な支援が必要なのか	診断がつかない特別な支援が必要な子どもについて
4	発達を理解する	ふつうや標準を理解する意味について
5	発達を理解する	発達検査について
6	発達の違いを理解する	発達の違いと個人差について
7	発達の違いを理解する	発達の仕方のイメージについて
8	障がいの特性を理解する	肢体不自由児と知的障がい児について

9	障がいの特性を理解する	視覚、聴覚障がい、病弱虚弱、言語障がい等について
10	障がいの特性を理解する	発達障がいの定義、ASD・ADHD・LDについて
11	支援方法を理解する	心の支援について
12	支援方法を理解する	らせん状とスモールステップについて
13	支援方法を理解する	自尊感情を尊重した個別支援の重要性について
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	障害児保育B		
必修選択	選択	（学則表記）	障害児保育B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	障害児保育ワークブック		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場における特別な支援の必要性と支援の方法を理解する
到達目標	具体的な支援方法について述べることができる 能動的学習を意識し、積極的に発言できる
評価基準	修得確認（テスト）、ワークシート：60％　授業態度：40％
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格、幼稚園教諭免許
関連科目	特別支援教育・保育概論A・B、障害児保育A
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	平田 千早子	実務経験	○
実務内容	小学校の学級担任や教育委員会の相談機関、心理判定員として実務経験あり。 保育士・教育カウンセラー等、資格取得		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	支援方法を理解する	困った行動の意味とコミュニケーションについて
3	支援方法を理解する	褒め方・叱り方、子どもに合ったよい支援について
4	支援方法を理解する	物や時間の認知のつまづきと構造化による環境整備について
5	支援方法を理解する	生活に役立つ見える化カードか保育室について
6	支援方法を理解する	周囲との連携とサポートネットのイメージについて
7	支援方法を理解する	地域資源サポートネットワークについて
8	支援の方法を考える	自尊感情と感覚の違いについて

9	支援の方法を考える	コミュニケーション、集団適応、生活、運動、学習の支援について
10	個別の教育支援計画をつくる	個別の支援計画作成について
11	個別の教育支援計画をつくる	個別の支援計画作成について
12	ケーススタディ	子どもの感覚について
13	保護者支援と今後の課題	保護者支援の実践例について
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	子どもの音楽ⅡA		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの音楽ⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	30
使用教材	こどものうた200、続こどものうた200 保育のためのやさしい子どもの歌―弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	チャイルド本社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる子どもの歌を理解し、弾き歌いの技術を身に付ける
到達目標	保育者として必要な音楽技能、技術を実践することができる
評価基準	小テスト（実技）50%　修得確認（実技）30%　授業態度20%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	子どもの音楽ⅠA・ⅠB/子どもの音楽ⅡB/子どもの音楽ⅢA・ⅢB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	齋藤 寿子	実務経験	○
実務内容	音楽教室・保育所・プレ幼稚園にて音楽講師として指導		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 季節の歌 （春）	オリエンテーション 春の歌を実践
2	季節の歌 （春）	
3	行事の歌 （春）	春の行事の歌を実践 小テスト
4	行事の歌 （春）	
5	園生活の歌	園生活の歌を実践
6	園生活の歌	
7	うたあそび・みんなのうた	続こどものうたより、うたあそびなどよく歌われる歌を実践 小テスト
8	うたあそび・みんなのうた	

9	季節の歌　（夏）	夏の歌を実践 小テスト
10	季節の歌　（夏）	
11	行事の歌　（夏）	
12	行事の歌　（夏）	
13	うたあそび・みんなのうた	続こどものうたより、うたあそびなどよく歌われる歌を実践 まとめとして練習曲2曲を実践
14	うたあそび・みんなのうた 修得確認	
15	総まとめ、振り返り	総まとめ、振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	子どもの音楽ⅡB		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの音楽ⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	30
使用教材	こどものうた200、続こどものうた200 保育のためのやさしい子どもの歌一弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	チャイルド本社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる子どもの歌を理解し、弾き歌いの技術を身に付ける
到達目標	保育者として必要な音楽技能、技術を実践することができる
評価基準	小テスト（実技）50%　修得確認（実技）30%　授業態度20%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	子どもの音楽ⅠA・ⅠB/子どもの音楽ⅡA/子どもの音楽ⅢA・ⅢB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	齋藤 寿子	実務経験	○
実務内容	音楽教室・保育所・プレ幼稚園にて音楽講師として指導		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 季節の歌　(秋)	オリエンテーション 秋の歌を実践 小テスト
2	季節の歌　(秋)	
3	行事の歌　(秋)	
4	行事の歌　(秋)	
5	うたあそび・みんなのうた	続こどものうたより、うたあそびなどよく歌われる歌を実践 小テスト
6	うたあそび・みんなのうた	
7	うたあそび・みんなのうた	
8	うたあそび・みんなのうた	

9	季節の歌　（冬）	冬の歌を実践 小テスト
10	季節の歌　（冬）	
11	行事の歌　（冬）	
12	行事の歌　（冬）	
13	うたあそび・みんなのうた	卒園式の歌などを実践 まとめとして練習曲2曲を実践
14	うたあそび・みんなのうた 修得確認	
15	総まとめ、振り返り	総まとめ、振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	運動あそび		
必修選択	選択	(学則表記)	運動あそび		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	30
使用教材	①0～5歳児の発達に合った楽しい！運動遊び ②幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために		出版社	①ナツメ社 ②サンライフ企画	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期に必要な運動遊びは何かを学び、現場で使える力を身につける。
到達目標	・乳幼児期に必要な基本運動を理解することができる。 ・心身の成長を促すことができる発育発達に応じた運動遊びを身につけることができる。 ・各種遊具を用いた安全管理の基本や楽しく実践するための指導法を身につけることができる。
評価基準	小テスト、課題レポート：20%　修得確認：30%　授業態度と参加の積極性：50%
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	子どもの運動支援
備考	原則、対面授業形式にて実施する

担当教員	東條 真吾	実務経験	○
実務内容	パーソナルトレーナーとして11年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の内容及び進め方について なぜ、運動遊びが必要かについて
2	からだを使って遊ぶ１	全身運動について1①
3	からだを使って遊ぶ２	全身運動について②
4	からだを使って遊ぶ３	鬼遊びの内容と指導法について①
5	からだを使って遊ぶ４	鬼遊びの内容と指導法について②
6	マットを使った遊び１	マットを用いた遊びの安全管理・補助法について
7	マットを使った遊び２	マットを用いた遊びの導入法・指導法について①
8	マットを使った遊び３	マットを用いた遊びの導入法・指導法について②

9	鉄棒を使った遊び１	鉄棒を用いた遊びの安全管理・補助法について
10	鉄棒を使った遊び２	鉄棒等を用いた遊びの指導・幇助法について①
11	鉄棒を使った遊び３	鉄棒等を用いた遊びの指導・幇助法について②
12	ボールを使った遊び１	ボール遊びの導入法・安全管理、いろいろな動きについて ボール遊びの指導法について①
13	ボールを使った遊び２	ボール遊びの指導法について② ボール遊びを考案し共有、実践
14	修得確認	ここまで行った補助法・幇助法の修得確認を実施
15	振り返り	修得確認振り返り
16	跳び箱を使った遊び１	跳び箱を用いた遊びの安全管理、補助法について
17	跳び箱を使った遊び２	跳び箱等を用いた遊びの指導・幇助法について①
18	跳び箱を使った遊び３	跳び箱等を用いた遊びの指導・幇助法について②
19	なわを使った遊び１	なわを用いた遊びの指導・幇助法について
20	なわを使った遊び２	長なわを用いた遊びの指導・幇助法について
21	なわを使った遊び３	短なわを用いた遊びの指導・幇助法について
22	集団遊び１	集団で行われる運動遊びの内容と指導法について①
23	集団遊び２	集団で行われる運動遊びの内容と指導法について②
24	器具を使った遊び１	サーキット遊びの内容と安全管理、指導法について①
25	器具を使った遊び２	サーキット遊びの内容と安全管理、指導法について②
26	実技修得確認	ここまで行った補助法・幇助法の修得確認を実施
27	運動遊び指導の実践１	運動遊びの指導案の作成について
28	運動遊び指導の実践２	運動遊びの発表（模擬保育）①
29	運動遊び指導の実践３	運動遊びの発表（模擬保育）②
30	まとめ	本授業の目標・テーマに基づいての振り返り、まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習対策ⅡA		
必修選択	選択	(学則表記)	実習対策ⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	各校裁量 施設実習パーフェクトガイド (幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド)		出版社	わかば社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる人材になる。
到達目標	実習生として子どもたちの前に立つ責任とやりがいを理解することができる。 実習生に必要な「話す、動く、書く、作る」技術を身に付け、必要な準備をして実習に参加する。
評価基準	提出物・指導案・実習グッズ作品：60% 授業態度・発表：40%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	実習対策ⅠA、ⅠB/実習対策ⅡB/実習対策ⅢA、ⅢB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	佐藤　恵	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【実習の基本確認】 実習の種類と目的①	必要な単位と実習期間・実習先について 実習の目標と心構えについて
2	【実習の基本確認】 実習の種類と目的①	幼稚園と保育園、それぞれ1日の活動内容について 事前必要書類・オリエンテーション・お礼状について
3	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	【ワーク】子どもの発育・発達の特徴をグループで発表する。
4	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	保育記録・実習日誌の書き方について 部分実習、責任実習など、実習の種類について
5	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	年齢に合わせた指導案の立て方について
6	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	年齢に合わせた指導案の立て方について
7	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	年齢に合わせた指導案の立て方について
8	【実習の準備】 絵本の読み聞かせ③	【ワーク】年齢にそった手遊び・絵本を選び、発表する。

9	【実習の準備】 絵本の読み聞かせ③	【ワーク】年齢にそった手遊び・絵本を選び、発表する。
10	【実習の振り返り】 実習に行っての振り返りの作成④	【ワーク】実習へ行っての個人の振り返りと、グループでの振り返り、次につながる課題を作成し、発表する。
11	【実習の基本確認】 実習の種類と目的⑤	教育実習に向けての心構えについて 【ワーク】保育園と幼稚園の違い・関わり方の違いについて
12	【実習の準備】 指導案の作成⑥	幼稚園の子どもたちの年齢に合わせた活動について
13	【実習の準備】 指導案の作成⑥	幼稚園の子どもたちの年齢に合わせた活動について
14	【実習の準備】 指導案の作成⑥	幼稚園の子どもたちの年齢に合わせた活動について
15	総まとめ	振り返り、前期の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習対策ⅡB		
必修選択	選択	(学則表記)	実習対策ⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	各校裁量 施設実習パーフェクトガイド (幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド)		出版社	わかば社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる人材になる。
到達目標	実習生に必要な「話す、動く、書く、作る」技術を身に付け、必要な準備をして実習に参加する。 施設実習について理解し、実習生として必要な知識を学ぶ。
評価基準	提出物・指導案・実習グッズ作品：60% 授業態度・発表：40%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	実習対策ⅠA、ⅠB/実習対策ⅡA/実習対策ⅢA、ⅢB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	佐藤　恵	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【実習の準備】 実習グッズの作成⑦	実習に必要なグッズについて
2	【実習の準備】 実習グッズの作成⑦	実習に必要なグッズについて
3	【実習の振り返り】 実習へ行っての振り返り作成④	【ワーク】実習へ行っての個人の振り返りと、グループでの振り返り、次につながる課題を話し合う。
4	【実習の振り返り】 実習研究発表会の準備⑧	【ワーク】実習研究発表会に向けて、グループでPPTを作成する。
5	【実習の振り返り】 実習研究発表会の準備⑧	【ワーク】実習研究発表会に向けて、グループでPPTを作成する。
6	【実習の振り返り】 実習研究発表会の準備⑧	【ワーク】実習研究発表会に向けて、グループでPPTを作成する。
7	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の理解⑨	【ワーク】様々な施設についてグループで調べ、発表する。 ・児童福祉施設の種類と役割について

8	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の理解⑨	【ワーク】施設の入所者との関わり方について
9	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の日誌の作成⑩	保育園・幼稚園との日誌の書き方の違いについて
10	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の日誌の作成⑩	保育園・幼稚園との考察の書き方の違いについて
11	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の日誌の作成⑩	部分実習・責任実習・レクレーションなどの指導案を立てる。
12	【次年度実習に向けて】 必要書類作成⑪	次年度実習に必要な書類について
13	【次年度の実習に向けて】 保育技術確認⑫	実習に必要なグッズを作成する。
14	【次年度の実習に向けて】 保育技術確認⑫	実習に必要なグッズを作成する。
15	【次年度の実習に向けて】 総まとめ⑬	3年次の実習までのスケジュールを伝える。 まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どものメディカルサポートA		
必修選択	選択	（学則表記）	子どものメディカルサポートA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	医療保育改定第4版　ぜひ知っておきたい小児科知識		出版社	診断と治療社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	小児医療現場での保育者の役割を理解する
到達目標	小児医療現場と保育現場に共通する保育士の役割を述べることができる。 救急対応や事故防止の知識や技術を身に付けることができる。 児童虐待の実態を知り、保護者との関わりの中で気にかけるべきポイントを理解することができる。
評価基準	修得確認（テスト）と提出物：60%　授業態度：40%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	子どものメディカルサポートB、入院中の子どものケアA・B、病児保育A・B、病児のあそびA・B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	佐藤　由美
実務経験	○
実務内容	医療機関にて看護師として約8年勤務経験あり。

自然状況等により
授業の展開が変わ

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療保育を知る	・医療保育の目的と意味について ・授業の全体像と今後の学びについて
2	Ⅰ．医療保育概論	・医療保育について ・病児・障害児保育の保健管理について ・地域との連携について ・保護者との連携について
3		
4	Ⅱ．救急対応	・子どもの一次救命処置について ・心肺蘇生の実際について ・異物による気道閉鎖について ・エピペンの使用方法について （※実技を入れた方が理解が深まるため、2コマでは内容的に厳しいので増やしています）
5		
6		
7		

8 9	Ⅲ．事故防止と対応	・わが国における乳幼児の事故発生の現状について ・”不慮の事故”による死亡原因について ・家庭内・保育所・病院における事故について ・事故時の対応について ・リスクマネジメントと事故防止について ・保護者に対する家庭内事故防止の指導について
10 11	Ⅳ．子ども虐待への対応	・わが国における子ども虐待の実態について ・初期対応について ・子ども虐待の発生要因について
12 13	Ⅴ．発達障害	・発達障害者支援法と発達障害の定義について ・発達障害児のおかれている現状について ・自閉症スペクトラム/自閉症スペクトラム障害について ・アスペルガー症候群について
14	修得確認	・これまでの学びをまとめ、知識を整理するために試験を受ける。
15	総まとめ	・試験の振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どものメディカルサポートB		
必修選択	選択	（学則表記）	子どものメディカルサポートB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	医療保育改定第4版　ぜひ知っておきたい小児科知識		出版社	診断と治療社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	小児医療現場での保育者の役割を理解する
到達目標	・乳幼児突然死症候群の頻度やリスクファクター、保育現場での防止を理解できる。 ・食物アレルギーへの対応が理解し実践で活用できる。 ・感染症対策についての知識を深め、対策や健康安全について理解できる。
評価基準	修得確認（テスト）と提出物：60%　授業態度：40%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	子どものメディカルサポートA、入院中の子どものケアA・B、病児保育A・B、病児のあそびA・B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	佐藤　由美	実務経験	○
実務内容	医療機関にて看護師として約8年勤務経験あり。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Ⅴ．発達障害	・限局性学習症について ・注意欠如・多動症について ・保護者を相談・医療機関へ繋げることについて ・TEACCHプログラムの応用と実践について
2		
3		
4	Ⅵ．乳幼児突然死症候群（SIDS）	・乳幼児突然死症候群（SIDS）について ・SIDSの発生頻度について ・SIDS発生のリスクファクターについて ・保育所での防止対応について ・保護者へのサポート体制について
5		
6	Ⅶ．アレルギーへの対応	・食物アレルギーについて ・気管支喘息について ・アトピー性皮膚炎について
7		

8 9	Ⅷ．感染症対策	・感染経路パターンについて/・予防できる感染症と治療できる感染症について ・職員のワクチンで予防可能な疾患対策について/・女性職員への対策について ・感染症対策の基本について/・学校保健安全法について ・予防接種の基本について
10 11 12 13	Ⅸ．疾患の概論と各論	A症状と疾患の概説 ・発達地帯・発熱・けいれん・腹痛・嘔吐・下痢・機嫌が悪い（泣き止まない）・発疹・下肢痛 B疾患各論 ・感染症・神経系の疾患・アレルギー性の疾患・循環器系の疾患・肝臓の疾患・代謝、分泌系の疾患 ・消化器系の疾患・血液の疾患・悪性疾患・呼吸器系の疾患・皮膚の疾患・耳鼻咽喉科系の疾患 ・目に関連する疾患・手足に関する疾患
14	修得確認	・これまでの学びをまとめ、知識を整理するために試験を受ける。
15	総まとめ	試験の振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	入院中の子どものケアA		
必修選択	選択	（学則表記）	入院中の子どものケアA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	医療を受ける子どもへの上手な関わり方		出版社	日本看護協会出版会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	病棟保育士が対応できることは何かを考え、子どもの発達や心理を理解した保育的支援を理解する。 医療を受ける子どもへの配慮とかかわりを理解し、保育現場でのより細やかな支援につなげる。
到達目標	チャイルドライフスペシャリストを理解することで、医療現場における保育者の使命と役割を説明できる。 グループワークや実践を通して、能動的な学習と課題研究の姿勢を身に付けることができる。
評価基準	修得確認（テスト）：50%　授業態度：30%　ワークシート：20%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	子どものメディカルサポートA・B、入院中の子どものケアB、病児保育A・B、病児のあそびA・B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	渡邊　奈未子	実務経験	○
実務内容	医療機関にて看護師として約11年勤務経験あり。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子ども・家族中心の医療がなぜ必要なのか	小児医療における「子ども・家庭中心医療」について
2	①療養環境の工夫	発達の理解（乳幼児期は学習済みのため確認のみ）について
3	②療養環境の工夫	子どもが安心できる居場所作りの必要性と工夫、プレイルームの活用方法について
4	③療養環境の工夫	子どもの視点での環境整備、恐怖心を取り除く工夫（なぜ怖いのかを考える）について
5	④療養環境の工夫	子ども視点での環境整備、待合室の環境整備プラン作成について
6	①発達段階に応じたかかわり方	乳児期の子どもの発達と援助方法のについて 乳児期の遊びの確認と医療現場への活かし方について
7		子どもの入院に伴う母親の心情理解、入院中のストレスとコーピングについて
8	②発達段階に応じたかかわり方	入院中の子どもの遊び、病気や治療についての子どもの受け止め方について

9	③発達段階に応じたかかわり方	学習環境の整備と支援、学校との連携、学童期の子どもの理解について
10	④発達段階に応じたかかわり方	発達段階によるいのちへの理解と正しい説明・いのちに関する絵本の考察・子どもの意思決定への見極め・情報提供後の精神的フォローについて
11	⑤発達段階に応じたかかわり方	思春期の子どものプライバシーとコミュニケーション、思春期の子どもに適した支援と環境設定について
12	①きょうだい支援	きょうだいの支援と親との連携、家族のコミュニケーション支援について
13	②きょうだい支援	きょうだいへの正しい情報提供と配慮、きょうだいとのコミュニケーション支援について
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	入院中の子どものケアB		
必修選択	選択	（学則表記）	入院中の子どものケアB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	医療を受ける子どもへの上手な関わり方		出版社	日本看護協会出版会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	病棟保育士が対応できることは何かを考え、子どもの発達や心理を理解した保育的支援を理解する。 医療を受ける子どもへの配慮とかかわりを理解し、保育現場でのより細やかな支援につなげる。
到達目標	チャイルドライフスペシャリストを理解することで、医療現場における保育者の使命と役割を理解し、 支援を行う事が出来る。
評価基準	修得確認（テスト）：50%　授業態度：30%　ワークシート：20%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	子どものメディカルサポートA・B、入院中の子どものケアA、病児保育A・B、病児のあそびA・B
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	渡邊　奈未子	実務経験	○
実務内容	医療機関にて看護師として約11年勤務経験あり。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもへの説明とプリパレーション	説明の種類、プリパレーションの段階別理解について
2	①子どもへの説明と親への支援 ②説明の時期とタイミング	子どもの不安軽減と親の心理、発達段階に応じた説明とタイミングについて
3	③説明時の言葉の選び方 ④痛みについての説明	子どもへの言葉と配慮、恐怖の軽減、治療の説明の実践について
4	⑤ツール活用時の工夫 ⑥検査や手術の説明	発達段階における適したツールと説明方法、恐怖心軽減ための工夫について
5	検査・処置中の支援 ①処置を嫌がる子どもへの対応	処置のプリパレーションと処置室の環境整備について
6	②処置の際の声かけ	子ども視点での配慮と声かけについて
7	③痛みを伴う検査や処置中の支援 ④子どもが部屋で一人になる検査・治療の支援	心の準備のための痛みの正しい理解と伝え方、孤独感軽減のための対策について
8	⑤限られた時間内でのかかわり ⑥親の処置参加	緊急な対応での子ども支援、親の心情理解と対応について

9	日常生活の援助 ①バイタルサインの測定	バイタルサイン測定の理解、安心感を与えるツールの工夫と言葉の実践について
10	②内服の促し ③面会終了時に泣き出す子どもへの対応	内服薬と内服補助グッズの理解、親との分離による恐怖感と罪悪感からの支援について
11	④排泄の援助 ⑤清潔ケア	自尊心を尊重しながらの援助方法、テープ交換の実践について
12	⑥発達障害のある子どもへの対応	自閉症の特徴の確認と入院生活上の留意点、視覚的支援方法の工夫について
13	多職種連携 ①多職種連携の方法 ②放射線部門と多機能連携	小児病棟に関わる職種の理解・多職種間の円滑材となるための工夫と援助について 小児病棟と他部門の医療スタッフとの連携について 子どもの不安軽減のための配慮について
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアゼミナールⅡA		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアゼミナールⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場働く保育者として・社会人として必要とされる基礎知識を身に付ける。		
到達目標	社会人としての基礎的なマナーや実習先で必要とされるマナーや立居振舞を身に付け、 進級した際にスムーズに就職活動に取り組むことが出来る。		
評価基準	試験：40%　提出物：30%　授業態度：30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の２以上 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	キャリアゼミナールⅠA・ⅠB、キャリアゼミナールⅡB、キャリアゼミナールⅢA・ⅢB		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	鈴木　社子　他1名	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的とゴール像について 今後2年間の学校生活の流れと、行うべき事について
2	実習に向けて①	保育現場や医療現場で必要とされる人材の身だしなみについて
3	実習に向けて②	実習先で心がけるマナーや立居振舞について
4	実習に向けて③	実習先で心がけるマナーや立居振舞について
5	コミュニケーションについて①	指示の受け方、報告・連絡・相談の仕方、失敗への対処と注意の受け方について
6	コミュニケーションについて②	電話のマナーと話し方を理解し、かけ方・受け方・取次のポイントについて
7	コミュニケーションについて③	電話のマナーと話し方を理解し、かけ方・受け方・取次のポイントについて
8	コミュニケーションについて④	ビジネス文書の種類と特徴、形式について

9	コミュニケーションについて⑤	ビジネス文書の種類と特徴、形式について
10	まとめ	実習でのマナーとコミュニケーションについて
11	コミュニケーションについて⑥	社会人として必要な来客対応の方法について
12	コミュニケーションについて⑦	社会人として必要な来客対応の方法について
13	コミュニケーションについて⑧	慶事の種類やTPOに合う服装、マナーについて
14	試験	期末テストの実施
15	総まとめ	前期の振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアゼミナールⅡB		
必修選択	選択	（学則表記）	キャリアゼミナールⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場働く保育者として・社会人として必要とされる基礎知識を身に付ける。
到達目標	社会人としての基礎的なマナー、実習先で必要とされるマナーや立居振舞を実践することができる 進級した際にスムーズに就職活動に取り組むことができる
評価基準	試験：40%　提出物：30%　授業態度：30%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	キャリアゼミナールⅠA・ⅠB、キャリアゼミナールⅡA、キャリアゼミナールⅢA・ⅢB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	鈴木　社子　他1名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職活動に向けて（面接）①	就職試験の種類について
2	就職活動に向けて（面接）②	面接試験のポイントについて
3	就職活動に向けて（面接）③	面接試験のポイントについて
4	就職活動に向けて（面接）④	面接試験のポイントについて
5	就職活動に向けて（作文）①	語句の正しい使用方法、文法について
6	就職活動に向けて（作文）②	指示語、接続語、段落の役割について
7	就職活動に向けて（作文）③	新聞記事の読み取り方について
8	就職活動に向けて（作文）④	表現の方法、語尾の使い分けについて

9	就職活動に向けて（作文）⑤	小論文と作文の違いについて
10	就職活動に向けて（作文）⑥	テーマに沿った作文について
11	就職活動に向けて（作文）⑦	添削された内容について
12	就職活動実践①	就職活動の具体的な計画について
13	就職活動実践②	就職活動の具体的な計画について
14	試験	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療事務Ａ		
必修選択	選択	（学則表記）	医療事務Ａ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	3	45
使用教材	①診療報酬点数早見表②カルテ問題集③薬価表④早見表⑤医療事務テキストⅠ、Ⅱ⑤検定過去問題集		出版社	①医学通信社②～⑤ユアサポート⑤全国医療事務教育協議会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	点数表を読み内容が理解でき、様々な算定に対応できる力を習得する 医療事務の仕事について理解し、日本の医療制度や健康保険法を中心に医療の現場で必要な知識を習得する
到達目標	医療事務の仕事について述べることが出来る 点数表を読み込み、レセプト作成ができる 日本の医療制度や健康保険法などの現場で必要な知識を述べることが出来る
評価基準	評価テスト30％　小テスト20％　提出物30％　授業態度20％
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	医療事務検定2級、医療事務検定1級
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	佐藤　綾子	実務経験	○
実務内容	医療機関にて医療事務員として約7年勤務経験あり。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	
1	オリエンテーション	・医療事務とは（仕事内容）　年間授業内容　履修目的　検定日程等 ・日本の医療制度、医療保険のしくみ
2	受付事務と請求事務	・社保、国保、医療法、健康保険法について　・カルテの上書き、レセプトの上書き
3	診療報酬の算定・基本診療料	・点数表の構成と見方　・初診料・再診料・外来診療料
4	医学管理等	・特定疾患療養管理料、薬情など外来算定のものを中心に実施
5	医学管理等・在宅医療	・外来算定のものを中心に実施　・往診料　・在宅療養指導管理料
6	投薬	・薬剤の種類、薬価の引き方　・薬剤料の計算方法　・投薬料の算定
7	投薬	・投薬料の算定　（調剤料・処方料・調剤技術基本料）

8	投薬	・処方箋料　・その他　・ビタミン剤の算定、うがい薬の算定、湿布薬の算定
9	注射	・薬剤料　・注射実施料（手技料）　iM，iV
10	注射	・注射実施料（手技料）　・その他の注射　・注射手技料の加算　・特定保険医療材料、その他
11	処置	・処置料の共通事項　・処置料の区分の算定　・一般処置から熱傷処置まで
12	処置	・処置料の算定
13	手術・麻酔	・処置との違い　・手術料の共通事項　・年齢加算　・時間外等加算
14	手術・麻酔	・創傷処理・小児創傷処理　・骨折非観血的整復術　・局所麻酔
15	まとめ・外来レセプト作成	・手術・麻酔までレセプト作成

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療事務Ｂ		
必修選択	選択	（学則表記）	医療事務Ｂ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	3	45
使用教材	①診療報酬点数早見表②カルテ問題集③薬価表④早見表⑤医療事務テキストⅠ、Ⅱ⑤検定過去問題集		出版社	①医学通信社②～⑤ユアサポート⑤全国医療事務教育協議会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	点数表を読み内容が理解でき、様々な算定に対応できる力を習得する 医療事務の仕事について理解し、日本の医療制度や健康保険法を中心に医療の現場で必要な知識を習得する
到達目標	医療事務の仕事について述べることが出来る 点数表を読み込み、レセプト作成ができる 日本の医療制度や健康保険法などの現場で必要な知識を述べることが出来る
評価基準	評価テスト30%　小テスト20%　提出物30%　授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者　成績評価が2以上の者
関連資格	医療事務検定2級、医療事務検定1級
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	佐藤　綾子	実務経験	○
実務内容	医療機関にて医療事務員として約7年勤務経験あり。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	
1	検査（検体検査）	・検体検査の共通事項　・検体検査実施料
2	検査（検体検査）	・検体検査実施料、緊検、外迅検
3	検査（生体検査）	・生体検査の共通事項　・生体検査実施料
4	病理診断	・病理診断の共通事項　・病理診断・判断料　・病理標本作成
5	画像	・画像診断の共通事項　・エックス線診断（単純撮影）
6	画像	・エックス線診断（造影剤使用撮影・特殊撮影・乳房撮影）　・コンピューター断層撮影診断
7	リハビリテーション料・輸血・精神科専門療法・放射線治療	・疾患別リハビリテーション料　・輸血　・精神科専門療法　・放射線治療
8	まとめ・外来レセプト作成	・外来レセプト作成　・学科問題の解き方

9	検定対策	・医事検定2級　模擬試験　　・学科問題
10	検定対策	・医事検定2級　模擬試験　　・学科問題
11	検定対策	・医事検定2級　模擬試験　　・学科問題
12	検定対策	・医事検定2級　模擬試験　　・学科問題
13	入院料・食事療養費	・90入院料、入院料の加算　・97入院時食事療養費
14	入院レセプト	・外来との違い（上書き、20、30、など）
15	入院レセプト	入院レセプト作成（閉鎖循環式全身麻酔等）

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	子どもの事故A		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの事故A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	保育・教育施設における事故予防の実践		出版社	中央法規	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	子どもの発達と事故の関係性について学び、事故防止策及びサポート方法を習得する		
到達目標	乳幼児の発達と事故の関係性を知り、事故防止対策と応急処置について説明と実践ができるようになる 傷害予防の基本的な考え方を習得し、子どもに対しては安全授業、保護者に対しては傷害予防教育ができるようになる		
評価基準	修得確認（小テスト・期末テスト）50%、ワークシート20%、授業態度30%		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	子どもの事故B		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	市山　佳樹	実務経験	○
実務内容	中学高校でのトレーニング指導10年及びトレーニングジム、接骨院での実務経験5年あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について 事故と傷害の違いについて
2	第１章１，２	保育・教育施設における事故の実態について
3	第２章１，２	傷害予防の基本的な考え方
4	第３章１，２	キーワードの理解 科学的傷害予防の基本手順
5	第３章３	予防方法の開発
6	第４章１，２	予防のための事故・ヒヤリハットデータの記録 既存の事故データベースの活用
7	第５章６	遊具による事故
8	第５章６	遊具による事故

9	第５章６	遊具による事故
10	実習の振り返り	実習の振り返りとまとめ
11	第３章４	家庭への科学的傷害予防の普及に向けた保育・教育施設の役割
12	第５章１	誤飲・中毒・食物アレルギーとアナフィラキシー
13	第５章７，８	窒息　乳幼児突然死症候群（P149） 熱中症
14	期末テスト	期末テスト
15	前期まとめ	テスト返却と前期まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	子どもの事故B		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの事故B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	保育・教育施設における事故予防の実践		出版社	中央法規	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子どもの発達と事故の関係性について学び、事故防止策及びサポート方法を習得する
到達目標	乳幼児の発達と事故の関係性を知り、事故防止対策と応急処置について説明と実践ができるようになる 傷害予防の基本的な考え方を習得し、子どもに対しては安全授業、保護者に対しては傷害予防教育ができるようになる
評価基準	修得確認（小テスト・期末テスト）50%、ワークシート20%、授業態度30%
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許
関連科目	子どもの事故A
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	市山　佳樹
実務経験	○
実務内容	中学高校でのトレーニング指導10年及びトレーニングジム、接骨院での実務経験5年あり

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 第５章２	授業の流れ、目標到達について 溺水
2	第５章３，５	やけど 交通事故
3	第５章４	転倒・転落
4	実習の振り返り	実習の振り返りとまとめ
5	第４章３	職員・教員への研修（幼児を対象とした安全授業の取り組みＰ058、幼児向け教材Ｐ070）
6	第４章３	職員・教員への研修（幼児を対象とした安全授業の取り組みＰ058、幼児向け教材Ｐ070）
7	第４章３，４	職員・教員への研修（保護者を対象とした傷害予防教育Ｐ59、大人向け教材・講座Ｐ070～） Love＆Safetyおおむら
8	第６章１，２	「法」とは？ 保育・教育施設に適用される法

9	第６章３	子どもの事故に関する責任
10	第６章４	裁判例から学ぶ事故事例
11	第５章９	応急処置と心肺蘇生法
12	第５章10	野外保育における事故
13	第５章10	野外保育における事故
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テスト返却と総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カウンセリングA		
必修選択	選択	(学則表記)	カウンセリングA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	スキルアップ保育園・幼稚園で使える カウンセリング・テクニック		出版社	誠信書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	カウンセリングに関する基礎的な知識を習得する
到達目標	子どもの心へのかかわり方について説明することができる 多様な悩みやニーズを抱える保護者とのかかわり方について説明することができる
評価基準	授業態度：60%　小テスト：40%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	子育て心理カウンセラー初級コース
関連科目	カウンセリングB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	青木　紀子	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて障害児クラスを2年担当		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育カウンセリングの基本的な考え方	保育カウンセリングについて
3	保育カウンセリングの基本的な考え方	よい関係をつくること、傾聴ー保育者が寄り添うということについて
4	保育カウンセリングの基本的な考え方	子どもの心の発達について
5	保育現場で使えるカウンセリング技法	Ⅰ ベーシックー雰囲気合わせについて Ⅱ うなずき、あいづちについて
6	保育現場で使えるカウンセリング技法	Ⅲ 伝え返しーリフレクションについて Ⅳ ミラーリングについて
7	保育現場で使えるカウンセリング技法	Ⅴ わたしメッセージについて Ⅵ リフレーミングー見方を変えれば短所が長所に変わることについて 小テストの実施

8	保育現場で使えるカウンセリング技法	Ⅶ 勇気づけについて Ⅷ がんばり見つけーエンカウンターについて Ⅸ モデリングーお手本について
9	保育現場で使えるカウンセリング技法	Ⅺ アサーションについて Ⅻ ソリューション・フォーカス・アプローチについて
10	子どもにかかわる保育カウンセリング	Ⅰ かんしゃくがとまらない子について Ⅱ 友だちと遊べない子の理解と対応について
11	子どもにかかわる保育カウンセリング	Ⅲ ケンカが絶えない子について Ⅳ 保育者になつかない子の理解と対応について
12	子どもにかかわる保育カウンセリング	Ⅴ 関心をもったり集中したりできない子について Ⅵ 嘘をつく子の理解と対応について
13	子どもにかかわる保育カウンセリング	Ⅶ 暴力をふるう子について
14	子どもにかかわる保育カウンセリング	Ⅷ よい食習慣がない子の理解と対応について 小テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カウンセリングB		
必修選択	選択	(学則表記)	カウンセリングB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	スキルアップ保育園・幼稚園で使える カウンセリング・テクニック		出版社	誠信書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	自己理解と他者理解についての知見を深め、より良い人間関係の構築について学ぶ
到達目標	職場での良好な人間関係の構築とチームワーク作りのためのスキルを収得し、実践に生かすことができる 支援を必要とする人の心理について理解して、適切な支援方法で対応することができる
評価基準	授業態度：60%　小テスト：40%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	子育て心理カウンセラー初級コース
関連科目	カウンセリングA
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	青木　紀子	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて障害児クラスを2年担当		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	子どもにかかわる保育カウンセリング	IX まばたき・指しゃぶりが多い子について X 性に関心のある子の理解について
3	子どもにかかわる保育カウンセリング	XI 発達に課題のある子について XII 家族が問題を抱えている子の理解と対応について
4	保護者にかかわる保育カウンセリング	I 保護者との信頼関係を構築することの意義と留意点について
5	保護者にかかわる保育カウンセリング	II かかわり方のポイントの理解について
6	保護者にかかわる保育カウンセリング	III 関係づくりのポイントについて
7	保護者にかかわる保育カウンセリング	IV 親と子の関係性を支援する－子育て支援の理解と支援の方法について V 発達障がいの子どもを抱える保護者へのかかわりについて 小テストの実施

8	保護者にかかわる保育カウンセリング	Ⅵ 精神疾患を抱える保護者へのかかわりについて
9	保護者にかかわる保育カウンセリング	Ⅶ 地域のネットワークへのつなぎ方について
10	保護者にかかわる保育カウンセリング	Ⅷ 保育者と保護者で行う新しい取り組みー「おむつなし育児」について
11	同僚の保育者と支えあうための 保育カウンセリング	Ⅰ カウンセリングは保育者の定着率アップとメンタルヘルスについて
12	同僚の保育者と支えあうための 保育カウンセリング	Ⅱ 保育者同士のチームワークを育むー三つのワークについて
13	同僚の保育者と支えあうための 保育カウンセリング	Ⅲ 管理者が保育者に行うカウンセリングについて Ⅳ 保育者のための専門家によるコンサルテーションについて Ⅴ 保育者の定着化について
14	同僚の保育者と支えあうための 保育カウンセリング	Ⅵ 保育者のメンタルヘルスのために、自分自身の心を大切にして悩みを解決していく方法について 小テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	教育実習Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	教育実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	90
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	幼稚園での体験を通して、保育のやりがいと責任を学び、保育の知識と技術を深める。
到達目標	指導案を作成し、必要な準備をした上で、子どもたちの前で実践できる。 時系列に沿って、子どもたちへの留意点を踏まえた日誌を作成できる。
評価基準	保育現場評価、実習日誌、実習準備、参加態度等を総合評価 小田原短期大学の実習評価基準に準ずる
認定条件	・10日以上、実保育時間（休憩除く）80時間以上 ・成績評価が2以上の者
関連資格	幼稚園教諭免許
関連科目	教育実習Ⅱ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）・保育実習Ⅱ・Ⅲ、実習対策ⅡA・ⅡB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	佐藤　恵
実務経験	
実務内容	

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	90
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育現場での体験を通して、保育のやりがいと責任を学び、保育の知識と技術を深める。
到達目標	指導案を作成し、必要な準備をした上で、子どもたちの前で実践できる。 時系列に沿って、子どもたちへの留意点を踏まえた日誌を作成できる。
評価基準	保育現場評価、実習日誌、実習準備、参加態度等を総合評価 小田原短期大学の実習評価基準に準ずる
認定条件	・90時間（休憩含む）以上または、実保育時間（休憩除く）80時間以上 ・成績評価が2以上の者
関連資格	保育士資格
関連科目	教育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ（施設）・保育実習Ⅱ・Ⅲ・実習対策ⅡA・ⅡB
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	佐藤　恵	実務経験	
実務内容			